13　工業

学校番号	3006

令和５年度　工業科（工業デザイン系）

教科	工業	科目	工業デザイン製図	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校用　デザイン製図（文部科学省/実教出版）						
副教材等							

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

プロダクトやインテリアだけでなく色々な分野において製図には多く目的がある。これまで学習してきたデザインや製図の知識や技能を更に発展させ自分がデザインした作品の情報を製作者に伝え、プレゼンテーションする技術や知識を習得する。

２ 学習の到達目標

自分でデザインしたプロダクト製品やインテリアなどをコンセプトのイメージ通りに表現し、プレゼンテーションでクライアントなどの第三者にその魅力を伝える必要がある。そのためこれまで専門の授業で習得したを基礎的・基本的な技能や技術から更に発展したものを習得し応用、利用できることを目指す。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	自分のデザインしたものをコンセプトのイメージ通り伝わるように意欲を持って前向きに取り組む姿勢・態度。	自分のデザインを正確により魅力的に表現し第３者プレゼンテーションできる様に表現できる。	プレゼンテーションするために必要となる三面図、透視図、イラストレーションなどを魅力的に描ける。	イラストレーションや等角図、透視図などをイメージ通り、性格に表現できるように作図法、彩色法などの技法を習得する。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述 制作品 観察記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述 制作品 観察記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 制作品 観察記録表 レポート自己評価・相互評価　等	学習状況の観察 ワークシートの記述 制作品 観察記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価等
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

ローテーション	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	図法の復習	・平面図 ・三面図 ・等角図	○ ○ ○	◎ ○	 ◎ ◎	◎ ◎ ◎	a:基本的な製図の技法に興味を持ち関心を持って取り組む。 b:立体を三面図、等角図でイメージ、表現ができる。 c:三面図や等角図の作図や定規や道具の使い方を習得する。 d:等角図の原理の理解。図の完成させた達成感	学習状況の観察 ワークシートの記述 制作品 観察記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価 等
2学期	図法の応用	・一点透視図基礎 ・一点透視図応用 ・プレゼンテーション	○ ◎	◎ ◎ ○	 ◎ 	 ◎ ◎	a:自身の設計したものを一点透視図など図法を理解し、正確に描くことに意欲的に取り組む。 b: どのような順番に描けば良いか実際に体験してみて習得する。 c:各種定規を駆使し、どのように描けば良いか実際に体験してみて習得する。 d: 図法の各表現を理解し、自分のプレゼンテーションに応用できるようにする。	学習状況の観察 ワークシートの記述 制作品 観察記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価 等
3学期	透視図	・二点透視図基礎 ・二点透視図応用 ・等角図、一点及び二点透視図の着彩 ・プレゼンテーション	◎ ○ ○ ○	◎ ◎ ◎ ◎	 ◎ ◎ ◎	 ○ ○ ○	a:自分でデザインしたインテリアなどを最も魅力的に見えるように意欲を見もって取り組む。 b:最も分かりやすく素敵に見えるような表現が出来る。 c:視点や着彩によりコンセプトどおりのイメージを伝えることが出来る。 d: コンセプトを表現するためにそれぞれの作図の長所短所を生かして目的にあった図法を選べる。。	学習状況の観察 ワークシートの記述 製作品 観察記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価 等

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。◎は、その中でも特に重点的に評価を行う観点である。